

1

指示語の攻略 1

▼指導ページ P 4～17▼

☆指導のポイント☆

- 指示語の指す部分
 - ①「直前の部分」＝指示語の指す部分の最も多い場合。
 - ②「前の部分」や「直前の形式段落」＝前の部分や文や直前の形式段落の内容を指す場合。
 - ③「直後の部分」＝指示語より後の部分に指す部分がある場合。
- 指示する部分の確認 指示語に指示する部分を入れてみて、文意が通じるかを確認する。

板書例

基本問題 1

（話題につなげる）＝社会福祉に関係する用語が日常の中で多く見られる

【話題】＝ここ四十年間での社会福祉コンシャスネスの変化

- 社会福祉への社会の関心の変化の歩み
- 五十年ほど前↓「社会事業＝社会福祉」＝一部の篤志家の行うこと
- その後↓社会的な関心＝広がり↓社会福祉を必要とする社会へ変化
- 社会福祉という制度・仕事とは
- 人びとの健康・文化的な生活を営む権利を守る社会的な支援
- ＝制度・仕事
- 社会福祉の理念や思想
- ＝長い時間↓つくられてきた・おおくの先駆者たち↓活動

基本問題 2

（話題につなげる）＝動物の親の愛情↓大宮公園のサル親の例

【話題】＝人間の親の子を育てる愛情

- 「動物の子育ては愛情深い」＝人間が自分勝手な解釈
- ローレンツのシチメンチョウの実験
- ホトトギスとウグイスの子育ての例

動物＝画一的・本能に従った子育て

人間の子育て＝本能を失う＝人間の

練習問題 1

【話題】＝地図は知らない土地へのイメージを広げる

- 印刷された以上のもの＝イメージさせてくれる地図
- 「青い色＝海」、「黒色の点＝島」、「緑色＝平野」、「小さな丸＝町」、「茶色＝山脈」、「赤色の線＝鉄路」、「破線＝国境」
- 情報を手に入れる手段としての地図
- 世界の人たちとつながること＝求められる時代
- ↓世界の情勢を知ることができる＝地図
- ↓世界で起きている事件の起こった場所を地図で調べる習慣をつけよう

筆者の考え 世界地図を見る＝国際的な視野を身につける入口

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P6)	問一 「言葉」という語に注目。直前の形式段落で列挙されている社会福祉に関わる語に注意。それらの語は、さらにその前の形式段落で「～な用語」としてまとめて述べられていることに着目。
	問二 直前の部分に注目。
	問三 社会の中での「社会福祉」の位置という意味から、「社会福祉」という語に着目して、同じ意味を表す言葉を探させる。14・15行目注目。
	問四 直後の55・56行目に着目。
	問五 55～58行目に着目。
基本問題 2 (P8)	問一 「ましてや」に着目。「前の事柄と比べて後に述べる事柄はさらに、いっそう」という意味の言葉であることから判断。
	問二 直後に述べられた筆者の経験を指している。
	問三 直後の「自分勝手」に着目。この場合の「自分」とは人間なので、人間の考え方を中心にしてその事柄を見る、ということを読み取らせる。
	問四 直後の形式段落である実験によりその意味が明らかにされていることを読み取らせる。48・49行目に注目。
	問五 直前の部分に注目。
練習問題 1 (P10)	問一 A・B・C＝直前の部分に注目。
	問二 それぞれの語を説明している表現を読み取らせる。
	問三 地球の地図について述べてきたこと全部を指すことを読み取らせる。
	問四 直後の部分で同じ内容を言い換えている部分に着目。「個人」という語に注目。
	問五 「鎖国」と対照的な内容を述べた箇所に着目。65行目に注目。
	問六 事が起きるという内容から、「事件」という語に着目。74行目に注目。
	問七 前半部分で、地図に示されたさまざまな場所についていろいろな興味ある事柄が想像させられることが述べられている。後半部分では、世界地図は世界とつながる情報手段であるから国際的な視野を身につけることができる手がかかりになることが述べられている。以上の点を読み取らせる。

☆指導のポイント☆

- 接続語の働き = 接続語をはさむ前後の語・文・段落の関係を表す働きがある→前後の語・文・段落の内容から、接続語が決まる。
 - 接続語の種類 = 「順接」「逆接」「並立・添加」「選択」「説明・例示」「転換」。
- これらの役割を明確に把握することで、文章の話題の展開及び要点を把握できる手段となる。

板書例

練習問題 1

料理 || 生命と戦うこと ↓ ほかの動植物の生命を犠牲
 || 食べること || 生きることの本質
 関野さんのグレートジャーニーの話

筆者の考え

- 「共利共生」 ↓ (例)「水田」など ↓ 人間 || 生活に有利な生態系を保つ
- 生態系の維持 || 人間が誤る ↓ 人間の存在が脅かされる
- 歴史から見る || 食の確保に余裕が生まれる
 ↓ 食料生産以外の仕事ができる ↓ 文化活動活発
- 文化の形成 || 人間らしく生きる || 食の安定した確保が必要

基本問題 2

近代社会 || 生活の機能を外部に委託 || 公権力 || 個人の機能を奪う
 (例) 子どもの教育・ごみ処理

さらに近年 || 財政問題 ↓ 公権力側が個人に機能を差し戻す傾向
 || 行政が情報を公開 ↓ 国民の意見を広く募る傾向

筆者の考え || 大切なこと

- 公権力が集めた情報の処理 || 結果を国民に正確にフィードバック
- 個人 || 責任をもって発言 + かかわること

基本問題 1

【話題】 || マナーの話

- 披露宴の会場に入る順番の例 ↓ 本来 || 主賓が後から入る
 || 主賓を迎える・席に案内する
 現在 || 主賓が先に会場に入るよう指示
- レディーズ・ファーストの例
 エレベーター ↓ 本来 || 女性が後から入る
 現在 || 男性が先に入る方が親切

筆者の考え

世の中の変化に合ったマナー・礼儀作法が必要

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 問一 (P20) 問二 問三 問四	① = 後に続く部分が当然の結果になる。 ② = 前に述べた話の内容を展開させる。 ③ = 後に続く部分が対立する内容となる。
	その理由が、後に2点述べられている。7行目と23行目に注目。
	直後に述べられた混乱の時代を象徴的に説明する一つの例として、直前の部分でレディーズ・ファーストの例があげられていることから推量。
	礼儀作法について、古くからの考え方と新しい時代の中で支持されている考え方を対比して述べる中で、筆者は若い人の考え方を受けとめる考え方に立っていることから判断。
基本問題 2 問一 (P22) 問二 問三 問四 問五 問六	① = 後に例が述べられている。 ② = 違う例を上げている。 ③ = 対立する内容。
	19・20行目に注目。
	個人からさまざまな機能を奪ったものは何かを読み取らせる。6行目及び16行目に注目。
	財政問題に着目。大きな政府では個人の機能を公権力が多くを担うから、費用が必要となってくるのが推量できる。
	直前の形式段落に着目。
	筆者の考えを読み取ることから、最後の段落に着目。
練習問題 1 問一 (P24) 問二 問三 問四	① = 直前部分の内容を後の部分が別な表現で言い換えている。 ② = 別な例をあげている。 ③ = 前後で対立する内容となっている。
	直後の部分の水田の例から理解させる。
	生態系の維持について誤った方法を行うことによって②となることから、地球環境を狂わせてしまうことによって引き起こされる事態が記述されている部分に着目。79行目に注目。
	直前の部分に着目。

☆指導のポイント☆

●記述問題への対応

- ①「何を問われているか」「どのように答えればよいか」を確認する。
- ②「理由」を問われていれば、「～から。」で答える。「どんなことか」と問われれば、「～こと。」で答える。
- ③「指定された語句を使って答える」場合は、「指定の語句」が本文中の「どこで」「どのように」使われているかを読み取り、ヒントにできる。
- ④「字数制限」には注意して、指定字数を超えてはいけない。

板書例

<p style="text-align: center;">練習問題 1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">【際】の意味</p> <p>↓「髪が生え際」「波打ち際」「水際」「いまわのきわ」⇒危ない場所 「際疾い」「敷居・閼」「クリティカルの語源」⇒力の沸騰する場所</p> <p>●「際」「閼」の意識↓いまの建築⇒境界がほんやり ⇒「自他」「内外」「公私」の境↓問いなおされた</p> <p>【からだの膨張】について</p> <p>⇒からだの持つ能力を道具や装置でのびる⇒自分をこえた知覚</p> <p>↓「反対」⇒委縮⇒からだの内側に縮こまる</p> <p>↓「自我」の解放・消失の感覚</p> </div> <p>筆者の考え</p> <p>じぶんの殻をやぶりたい気持ち・縮こまりたい気持ちが人にはある</p> <p>⇒生きていくということ</p>	<p style="text-align: center;">基本問題 2</p> <p style="text-align: center;">私の気持ち</p> <p>●寝坊↓しまった</p> <p>●誰も起こしてくれない↓泣きたい⇒悲しい</p> <p>●急いで学校へむかう↓とつくに遅刻だ・一時間目は始まっている</p> <p>↓一度くらい遅刻してもいいのでは？</p> <p>↓遅刻のいいわけを考える↓学校に行きたくない</p> <p>↓自分のおさえていた気持ち⇒学校が嫌い</p> <p>↓自分の合格⇒母自身のためだけに喜んでるように思えてくる</p>	<p style="text-align: center;">基本問題 1</p> <p style="text-align: center;">【話題】⇒宇宙での睡眠のパターンについて</p> <p>●睡眠のリズムの変化について⇒宇宙⇒一日が九十分</p> <p>↓ホルモンが混乱⇒睡眠のリズムが混乱⇒時差ボケのようになる</p> <p>●どういう場所で寝るか</p> <p>↓シートにくるまれて寝る・ロッカーのようなせまい空間で寝る</p> <p>⇒外敵の攻撃から身を守ろうとする人間の本能</p> <p>●どんなかっこうで寝るのか↓少し体をかがめた姿勢で寝る</p> <p>⇒胎児の子宮の中の姿勢</p> <p>筆者の考え ⇒宇宙という無重力での睡眠⇒可能性に満ちている</p>
--	---	---

ページ・問題番号	問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P34)	問一	直前の部分に着目。高齢者と若者の睡眠の傾向について述べた部分に注目。
	問二	テーマとは話題の主題。直前の部分に注目。
	問三	29～32行目に注目。
	問四	直後の形式段落に着目。
	問五	「これ」は人間の姿勢を指していることを読み取り、直前の形式段落に着目。56行目に注目。
基本問題 2 (P36)	問一	直前の()部分に注目。
	問二	直後の部分に着目。
	問三	直前の部分の内容を指しているが、別な表現で言い換えている部分に着目。61行目に注目。
	問四	直後の部分に「私」の気持ちが描かれている。69・70行目に注目。
練習問題 1 (P38)	問一	「際」と「からだの膨張」という語に注意して話題の転換に着目。
	問二	直前の「際」についての記述を参考にさせる。
	問三	直前の部分で「場所」を説明する記述に注目。
	問四	「閼」という語に注意して、直前の部分に注目。
	問五	分け目といった意味を持つことを説明していることから、「境」という語に注意。
	問六	「物質」に着目。46行目に注目。
	問七	⑥⑦を含む形式段落は、書き出しの語「たとえば」から直前の形式段落で述べられたことの具体的な例が述べられていることがわかる。直前の形式段落に着目。52行目に注目。

4

書きぬきの攻略

▼指導ページ P 46 ~59▼

☆指導のポイント☆

- 書きぬき問題への対応 ①設問文の指示を正確にとらえる。書きぬく字数、書きぬく方法、書きぬく範囲など。
 ②正確に書きぬく。漢字・ひらがな・カタカナに注意。句読点を字数に含むか含まないか。

板書例

<p>練習問題 1</p> <p>毎日のハードルの練習 遠子「ハードルへの苦手意識↓先生の指示どおりに必死に練習 お正月の練習 遠子「●愛子のことばから、先生を理解 ●記録にとられないで自由に走りたい ●大会が終わればハードルをやめたい その後・記録会の種目からハードルが除かれる 先生「残念・しかたがない 遠子「●練習がむだになって、くやしい ●自分のやりきれない気持ちを先生がわかってくれない」くやしい</p>	<p>基本問題 2</p> <p>「自転車屋」 洋平「友だちとサイクリングに行く↓新しい自転車↓ほしい ↓中古のサイクリング車「買ってもらえそうだ 「母親との会話」「母親から自転車を買うこととめられる 洋平「自分の思いどおりにならない↓くやしい ↓中古のサイクリング車↓借りよう 「自転車屋」 自転車屋のおじさん「中古の自転車を貸してくれない↓母親と同じ 洋平「反発</p>	<p>基本問題 1</p> <p>「サルのことば」 キツネザルの例「空からの危険・地表からの危険↓仲間知らせる 「ことなる声を出す↓記号としての意味」抽象度が高い 「人間のことは」 相手の顔色・状況・普段の言行から内容を理解↓心を読む 筆者の考え「最近の日本人 言語理解が「人間」から、「サル」記号」としてとらえる方向に変化</p>
---	--	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P48)	問一 警戒音=キツネザルの「声」に着目。8・9行目に注目。 問二 空からやってくる危険ということに注意。20行目に注目。 問三 36行目の「警戒音」に着目。「警戒音」を発するものとは、ここではキツネザル。 問四 「音」以外のものを認識の手がかりとするのは、「人間」ということに着目。44行目に注目。 問五 前の部分を後の部分で説明している。 問六 「逆行」に着目。言語理解のあり方についてAには「人間」について、Bには「サル」についての記述が入ることに着目。55行目と60行目に着目。
基本問題 2 (P50)	問一 1行目の「おじさん」の言葉に注目。 問二 17～19行目と26・27行目に注目。 問三 34・35行目に注目。 問四 時の経過に着目。「洋平が自転車屋にサイクリング車を下見に行く場面」「洋平と母親が話す場面」「洋平が自転車屋にサイクリング車を借りに行く場面」の3つの場面展開を読み取らせる。
練習問題 1 (P52)	問一 「ハードル」を「人間」のように表現した箇所を見つけさせる。56・57行目に注目。 問二 直後の部分からわかるように「正月」の練習のことなので、25行目に注目。 問三 直前の部分に注目。 問四 直前の「先生」の言葉に着目。ハードルが記録会の種目から除かれたことに対する「先生」の感想とそのことで「遠子」にむけられた言葉は何かを読み取らせる。 問五 直前の「先生」の言葉と直後の「遠子」の気持ちを描いた部分に着目。「先生」から「遠子」が思ってもいなかった内容の言葉を聞かされて、「遠子」が驚いてしまったことを読み取らせる。 問六 「こぶし」という語から手に関わる表現に注意させる。108・109行目に注目。

☆指導のポイント☆

①選択する上での注意

何が問われているかを、設問文から明確にする。

②本文の部分に関わる選択問題

記述問題解答の要領で関係する箇所の読み取り・解答案→選択肢の内容を正確に把握→用意した自分の解答と比較

③本文全体の内容に関わる選択問題

選択肢の内容の相違点の明確化→本文のキーワードに着目→選択肢の中のキーワードと比較考察→選択肢に共通する部分
=本文の内容をまとめていると判断→内容が選択肢によって異なる部分に注目→本文の内容と比較

板書例

<p>基本問題 1</p> <p>【話題】 犬は人の言葉を理解できるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダーウィンの説 犬は幼児程度の発達段階 単語を理解 ●シートンの犬のビンゴの話 シートンの言葉を理解した行動 ●「私」の秋田犬の場合 西瓜の話を理解 <p>↓ 筆者の感想 犬は簡単な単語は理解できる</p> <p>【話題】 犬は人の言葉を理解できるか</p>	<p>基本問題 2</p> <p>【話題】 科学と技術</p> <p>科学 対象とするものを分析し法則をみつける 次の段階 法則を使って新しいものをつくりだす 現代の技術 科学技術 対となって結びつく</p> <p>二十世紀の技術 科学と結びついて新しいものをつくりだした 最近の科学技術 高分子合成工業の例 遺伝子工学の例</p> <p>【話題】 科学と技術</p>	<p>練習問題 1</p> <p>【話題】 科学と技術</p> <p>科学 対象とするものを分析し法則をみつける 次の段階 法則を使って新しいものをつくりだす 現代の技術 科学技術 対となって結びつく</p> <p>二十世紀の技術 科学と結びついて新しいものをつくりだした 最近の科学技術 高分子合成工業の例 遺伝子工学の例</p> <p>【話題】 科学と技術</p>
---	---	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P62)	問一 後の部分から「犬」の行動に着目して内容を読み取らせる。 問二 筆者が主張したいことは、次の形式段落に述べられている。52・53行目に注目。 問三 その理由が直後の部分で述べられていることに着目。
基本問題 2 (P64)	問一 「夕子」が「愛」に話をした内容をおさえさせる。5～7行目に注目。 問二 直後の「愛」の言葉から、「行かない」の反対の内容を選ばせる。 問三 「愛」にとって自転車に乗っている状態は、転倒する前と変わらないにもかかわらず、動かなくなったのは、どういったことがあったのかを読み取らせる。「夕子」が「愛」に動かないことを要求するのに示した条件とは何か。66～74行目に注目。
練習問題 1 (P66)	問一 1 = 条件の添加。 2 = 例を示している。 3 = 当然の結果。 問二 直前の「対概念」と直後の「科学」「技術」→「全体」で一つのものと考え、という内容に着目。 問三 26行目の「しかし」に着目。「しかし」に続く部分で述べられている筆者の考えを読み取らせる。 問四 74行目の「問題」と同じ内容。68～73行目の内容を読み取らせる。 問五 「分析の科学と創造の技術が深くつながり、科学技術として発展をしつつある。その結果、科学技術は生物や人類に大きな影響を与えるようになってきているから、科学技術への人類の責任は重くなっている」というのが筆者の考えであることを読み取らせる。60～62行目に注目。

6

記述の攻略2

▼指導ページ P 74 ~87▼

☆指導のポイント☆

①指定字数に注意

字数が指定されている設問では、指定された字数を厳守。8割以上で指定字数を超えない。「句読点」を含むのか含まないのか、設問の内容を正確に理解する。

②記述問題の答えのつくり方

答えるにあたり、文章中の「ことば」を使うことが、指示されていれば、当然のこととして指示に従い、そういった指示のない場合でも、禁止されていなければ、文章中の「ことば」を使うことで内容をまとめて記述することや、的確に表現することができる。さらに、記述の答えに「指示語」は原則として使用しない。さらに、設問の要求する事柄を、簡潔に記述する。

板書例

基本問題1

夕食・ベッドに入るまで

「テツ」|| いつもと変わらない || ベッドに入る

真夜中

「テツ」|| 服を着る || 外へ行く

「わたし」|| こっそり後をつける

「テツ」|| 裏の物干し場 || 「何か || 猫の死骸」を引っぱりだす

↓ 隣の家 || 「何か || 猫の死骸」を置いてくる || 紙のような顔

「わたし」|| 「テツ」に声をかける

「テツ」|| いつもの表情にもどる

↓ 隣のおじさんがわるい || 猫の死骸を置いてきた

基本問題2

【話題】|| 心について

「心」|| ● 大事なものの || 評価されたくない

● 単純にわからないもの

モラル ↓ ● 二十世紀 || 目標達成型 || 共同体・同文化の協調性

● 二十一世紀 || 状況応原型 || 都市型・異文化との社交性

少人数教育 || 生徒との密接な関係 || 二十一世紀のモラルと反する状況をうむ

↓ 心への偏見を考えなおすこと || 大切

練習問題1

● 「ふしぎ」に思う

↓ 人 || 解決したい || 解決の体験 || 心 || 平静

↓ 「あたりまえ」 || 大人の世界

↓ 解決に大変な努力をする人 || 人類への偉大な貢献

↓ 「ふしぎ」を解決できない人 || 社会から嫌われる

● 子どもの世界 ↓ 「ふしぎ」 || 満ちている

↓ 解決 || ● 大人から知識 || 吸収

● 自分の気持ちや考え || 納得 || 物語がうまれる

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P76)	問一 13・14行目に注目。 問二 その後の「わたし」の行動から理解させる。 問三 前書きの部分と53・54行目から読み取らせる。 問四 扉の上に表れた「テツ」の顔は45・46行目から、「今」の表情は51・52行目からとらえさせる。
基本問題2 (P78)	問一 15～19行目に着目。2つの事柄が述べられている。 問二 それぞれの世紀のモラルを表す語句を選びださせる。板書例参照。 問三 《「少人数教育」→「密接」な生徒との人間関係→同文化の中での協調性→21世紀に求められるモラルを身につける環境ではない》という論理展開を読み取らせる。
練習問題1 (P80)	問一 《「ふしぎ」=解決すること》という点に着目。10行目に注目。 問二 「大人が生活している世界」をどんな世界と表現しているか読み取らせる。 問三 直前の部分を参考にして、②を含む形式段落の内容をまとめさせる。 問四 「この人」=「こんな人=48行目」から60行目までの内容をとらえさせる。 問五 81～84行目に着目。《大人の用意した説明=「外的」な説明》に対比して子ども自身の心の中で生まれた答えを、子どもは納得するという読み取らせる。



空欄補充の攻略

▼指導ページ P 88 ~ 101 ▼

☆指導のポイント☆

〈空欄の補充問題の解き方〉

- 「呼応の副詞」の問題…「なぜ～か」「もし～したら」「ぜひ～ください」「おそらく～だろう」「きっと～だろう」「まさか～ないだろう」「決して～ない」「めったに～ない」「少しも～ない」「まるで～ように」など。
- 擬態語・擬音語の問題……前後の様子や、状況を正確にとらえることが大切。
- 会話文の補充……誰の会話か、誰への言葉か、その会話に誰が何と応えているかを正確につかむ。前後の内容・発言者のことば使い・感情表現に注意を向ける。

板書例

<p>練習問題 1</p> <p>● サクラ ↓ 聖木 ↓ 田の神 ↓ 下りてくる木 ↓ 農作業の目安 ↓ サクラの木の下 ↓ 豊作の祈り ↓ 神と共食 ↓ 昔の日本人々 ↓ きつい作業 ↓ 志気を高める・団結 ↓ 現代のサラリーマン ↓ 花見 ↓ 昔と同じ</p> <p>● ヤマザクラ ↓ 開花 ↓ まちまち</p> <p>● ソメイヨシノ ↓ 人が作ったサクラ ↓ 開花 ↓ いっせい ↓ 同じ遺伝子</p> <p>● サクラの花 ↓ 生きるエネルギーの美 ↓ お花見でさわぐ ↓ 生きる喜び ↓ のんきな時代 ↓ 続いてほしい</p>	<p>基本問題 2</p> <p>● 「能力」 ↓ 心理学の立場から整理 「能力」の意味 ↓ 物事をなす力 「素質」の意味 ↓ 生まれながらにしても持っている性質 「能力」を高める ↓ 「素質」に加えて「勉強」が必要 「素質」 ↓ 見ることができない ↓ 「能力」としてあらわれる 「勉強」 ↓ した結果 ↓ 発見できる</p>	<p>基本問題 1</p> <table border="1"> <tr> <td>私</td> <td>私</td> <td>私</td> <td>私</td> </tr> <tr> <td>おとうさん</td> <td>おとうさん</td> <td>おとうさん</td> <td>おとうさん</td> </tr> <tr> <td>↓ もどってきて、「私」にあやまる</td> <td>↓ 「私」をおいて暗い山道を先に行く</td> <td>↓ 「おとうさん」の言葉に反発を感じる ↓ 「おとうさん」を大切に思う気持ち ↓ 素直に言葉に出せない ↓ いらいらする ↓ 「おとうさん」を困らせてみたい ↓ 甘える気持ち</td> <td>↓ 山に登る理由 ↓ 自分には関係のない ↓ 「私」に説教</td> </tr> <tr> <td>↓ お腹がすいてふらふらになる</td> <td>↓ 山道を「おとうさん」と山に登ることになる</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	私	私	私	私	おとうさん	おとうさん	おとうさん	おとうさん	↓ もどってきて、「私」にあやまる	↓ 「私」をおいて暗い山道を先に行く	↓ 「おとうさん」の言葉に反発を感じる ↓ 「おとうさん」を大切に思う気持ち ↓ 素直に言葉に出せない ↓ いらいらする ↓ 「おとうさん」を困らせてみたい ↓ 甘える気持ち	↓ 山に登る理由 ↓ 自分には関係のない ↓ 「私」に説教	↓ お腹がすいてふらふらになる	↓ 山道を「おとうさん」と山に登ることになる		
私	私	私	私															
おとうさん	おとうさん	おとうさん	おとうさん															
↓ もどってきて、「私」にあやまる	↓ 「私」をおいて暗い山道を先に行く	↓ 「おとうさん」の言葉に反発を感じる ↓ 「おとうさん」を大切に思う気持ち ↓ 素直に言葉に出せない ↓ いらいらする ↓ 「おとうさん」を困らせてみたい ↓ 甘える気持ち	↓ 山に登る理由 ↓ 自分には関係のない ↓ 「私」に説教															
↓ お腹がすいてふらふらになる	↓ 山道を「おとうさん」と山に登ることになる																	

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P90)	問一 「おとうさん」の話 = 「私」への説教。 問二 8 行目注目。 問三 <input type="checkbox"/> B = 直前の表現に着目。お腹が空いて体力が消耗している様子を選ぶ。 <input type="checkbox"/> C = 自分の思い通りにならない状況を表現する語を選ぶ。 問四 56・57 行目に注目。「おとうさん」の行動によって引き起こされる結果を予想している箇所の内容から、「おとうさん」がどういった行動をとると、「私」が考えていたかを推量させる。 問五 36・37 行目に着目。
基本問題 2 (P92)	問一 何かできる力 = 「能力」という視点から、6 行目着目。 問二 《「能力」があるといたい = 「能力」がないと判りたくない》という内容を選ぶ。 問三 先天の反対語。 問四 直後の部分で内容を説明している。45・46 行目に注目。 問五 《「素質」に「勉強」が加えられて「能力」として発揮される》という内容から判断。 問六 「素質」 = 「勉強をして能力となって表現されること」に注意。最後の文に注目。
練習問題 1 (P94)	問一 直前の部分に注目。 問二 A = 直前の部分に注目。 B = 「いっせいに花が咲くこと」と対比。 問三 直後の「期間」という語をヒント。36 行目に注目。 問四 41 ~ 63 行目に着目。 問五 54・55 行目に着目。 問六 「ヤマザクラ」には見いだせない価値観 = 「ソメイヨシノ」についての記述 65・66 行目に注目。 問七 74・78 行目に注目。

☆指導のポイント☆

〈指定語句・字数制限のない記述問題の解き方〉

- 語句が指定されていない場合においても、ヒントとなる語句は本文の中にある場合が多い。
設問文で、何が問われているかを正確にとらえることが大切である。
問いに対する解答となる部分を、本文中から読み取り、その部分で使用されている語句を手がかりとする。
- 字数制限のない場合には、解答欄の大きさから、解答文の字数を決める。内容は簡潔にまとめるようにする。

板書例

<p>練習問題 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 依子 友だち・梢、その妹・多美の家にあずけられる ↓ 家族のことが原因 ● 旅行の話 ↓ 飛び跳ねて喜ぶ多美 「うさぎ」みたい 依子 多美が「うさぎ」に見える不思議 ↓ いろいろなことが不思議 ● 梢と旅行の話 依子 小学生の時 北海道への一人旅 楽しく感じなかった 移動しただけ ↓ 北海道に行くより、今の方が旅行気分 ● 梢・多美 依子の気持ちかわからない ↓ 受け入れる 	<p>基本問題 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 浄林寺のほおずき市 「大ばあちゃん」が亡くなって三週間後 ● 「ゆい子」 ほおずき市を早く見たい 楽しい ↓ 「杉原健太」 店の手伝い ↓ 会う ↓ 「大おばあちゃん」を見かける うすべに色の「かさ」 楽しそう ゆうれいらしくない ↓ おどろく ↓ 「大ばあちゃん」にちがいない ● 「杉原健太」 「ゆい子」の話を信じる 	<p>基本問題 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 健全な精神 健全な身体 ↓ 本来の意味 心と体の両立をのぞむことわざ ↓ ことわざ 「才子多病」の話・スポーツ選手の例 ● 精神活動 知的活動 ↓ ある秀才の話・ある小学生の話 ↓ 健全な頭の働き 健全な体 よい体調
--	---	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>基本問題 1 (P104)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五</p>	<p>直前の部分に注目。 直後の形式段落に注目。「ある」という語の解釈についての説明に着目。 17行目の「立派な～」という表現に着目。これは、話題としている「ことわざ」の語句を言い換えたもの。「ことわざ」の表現を入れる。 スポーツ選手と勉強について述べられている直後の内容から推量。 文章の最後の文に注目。</p>
<p>基本問題 2 (P106)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五</p>	<p>駆けこんでいく様子から、早く見たいという気持ちを読み取らせる。 直後の言葉は「杉原健太」から「ゆい子」に対してむけられたものであることから推量。 ③④=いずれも、直後の部分に着目。 61～63行目の「杉原健太」が信じられないと言ったことに、「ゆい子」も同意している。なぜ、「ゆい子」がそのように思ったかを読み取らせる。 74・75行目から「ゆい子」が真剣に言っているので、「うそ」ではないと思った「杉原健太」の気持ちを読み取らせる。</p>
<p>練習問題 1 (P108)</p> <p>問一 問二 問三 問四 問五</p>	<p>直前に部分に注目。 4・5行目に注目。 「普通では考えられない」ことが直後の部分に描かれている。 「けれど」に着目。「贅沢」=「いいもの」を否定している部分を見つけさせる。78行目に注目。 聞こえるように言っているということは、「私」に内密にしようという意図が本当はないことから、「私」のことを、否定していない気持ちを読み取らせる。</p>

9

指示語・接続語の攻略2

▼指導ページ P 116～129▼

☆指導のポイント☆

〈指示語・接続語から内容を読み取る〉

- 指示語…語句や文のみならず直前の形式段落の内容を指している場合がある。形式段落の書き出しの指示語に注意する。
- 接続語…文と文の関係だけでなく、形式段落の関係を表している場合がある。形式段落の中心文をとらえて、要点をまとめることが重要である。接続語をとらえることで、形式段落の意味のまとまりを理解することができる。そのことで、文章の構成をとらえることができる。

板書例

練習問題1

(話題につなげる) 時計の話

【話題】 時間の流れについて

●人 目と耳・皮膚・頭 ↓ 時間を経過 感じる

●時間 全ての人に共通 ↓ 疑う 疑う インシユタイン

↓ 人・動物ごとに時間の流れる速さが違う ↓ 人 気づかない

筆者の主張 宇宙の時間の話 ↓ 人 過去の時間を復元できる動物

↓ 時間感覚 さまざま

基本問題2

やさしい社会 気楽・気軽 のない社会

日本人 対人関係 気楽さの欠如 謝らない

例 「企業の不祥事・仲間うち」 謝らぬ ↓ 「知らない人」 謝らない

↓ 対人恐怖症 現代日本人 プライド・恥 恥ずかしい

要因 経済 ↓ 職を守るのに必死 ↓ 過度の競争 ↓ 深刻・生き残り

「気楽」 「甘え」 しかられる

筆者の主張 「気楽・気軽」な社会 重要

基本問題1

(話題へみちびく) 長島精工 ↓ 現場で働く身体障害者から 「働くこと」 学ぶ

食べるために働く時代 自分が働くこと 傍を楽にさせること

経済的に豊かになった時代 労働への考え方変質

労働への価値 実用的

●大企業と中小企業の賃金の違いの例 モノ作り ばかばかしい

●生産現場の人と機械の例 怠惰な労働 労働の意味の喪失

モノの豊かな時代の負の遺産

●今 日本経済の混迷 ↓ フリーターの例 職を選ぶ自由 ↓ 失う

現代 自分の労働・仕事 見つめなおすこと 大切

「生きること 働くこと」と考える人

さまざまな現場にいるにちがいない

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P118)	<p>問一 前後の部分から「身体障害者」について説明している内容をまとめさせる。</p> <p>問二 ① = 直前の内容を後の部分で説明している関係。 ② = 「そうであるけれども」という意味。</p> <p>問三 ② = 直後に着目。「すぐに身体障害者と現場で働く人の中からわかる」という内容。</p> <p>③ = 39・40行目に注目。</p> <p>問四 直後の「仕事」に注意。「仕事」 = 「労働」から、直前の部分で「労働」についての記述に注目。</p> <p>問五 ①A = 「現代」社会の状況を筆者はどのようにとらえているかを読み取らせる。65・66行目に注目。</p> <p>①B = 67・68行目に注目。</p>
基本問題2 (P120)	<p>問一 後の部分に条件が列挙されている。</p> <p>問二 28行目から始まる形式段落に注目。</p> <p>問三 ① = 対立している内容。 ② = 身近なケースを挙げて説明。 ③ = 当然の結果が後に述べられている。</p> <p>問四 直前の部分に注目。</p> <p>問五 64・65行目に注目。</p>
練習問題1 (P122)	<p>問一 直前の部分に着目。</p> <p>問二 ここで話題となっていることは何かを正確にとらえさせる。13行目に注目。</p> <p>問三 「人 = 音楽が途切れる → 時間が止まったとは考えない → 呼吸・鼓動 = 体のリズムで時間を感じる」という話の流れに着目。23行目に注目。</p> <p>問四 「耳」と「目」を対比。27行目に注目。</p> <p>問五 前後の内容を正確にとらえさせる。</p> <p>問六 「差」 = 「異なっている違いの程度」から判断。46・47行目に注目。</p> <p>問七 過去のことを知ることを改めて理解すること、という内容から、70・71行目に注目させる。</p>

10

乱文整序・脱文挿入の攻略

▼指導ページ P 130～143▼

☆指導のポイント☆

●文章や段落を内容の通る正しい順序にならべる問題

文章や段落の書き出しに注目する。指示語から、指示している内容を読み取ることで、文章や段落の前後の関係をとらえる。接続語から、その文章や段落の直前の文章や段落との関係や文章全体における位置をとらえることができる。また「第一に」「第二に」「次に」「最後に」といった語から、そういった書き出しで始まる文章や段落の順序を特定できる。

板書例

基本問題1

問一

- A 「そう」の指示する内容 ↓ Aは同じ内容を説明
- || 「鳥のことしか知らない・地球について考えない」
- || 自分のことだけ考えて、生活できる || E ↓ AはEの後
- B 「しかし」 || 直前の内容と対立する内容
- ↓ Bの内容 || 「現代」の私たち || 宇宙 ↓ 限られた情報 || 「鳥」の人と同じ || 快適に生活
- ↓ 対立する内容 || 「宇宙について」「現代」に生きる私たちは知っている || D ↓ BはDの後
- C 「しかし」 || 直前の内容と対立する内容
- ↓ Cの内容 || 「鳥」の人 || 「太陽・気象」を知る ↓ 快適な生活
- || 対立する内容 || 「鳥のことしか知らない」 || A ↓ CはAの後
- D 「そして」 || 直前の内容から話題をすすめる
- || 「鳥」の人から「現代」に生きる私たちのことに話題がかわる
- || Dは「鳥」に住む人の話題の「A ↓ C」の後
- E || 話題を読者に示している || 書き出しの段落
- E ↓ A ↓ C ↓ D ↓ B

基本問題2

問二

- ↓ 「格差」「差別」の話題から始まる
- || 「格差」という語に注目 || Cが最初
- ↓ 「受験」の話題 || 友だちとの関係が薄れる || Bが次
- ↓ 友だちの関係が薄れる具体的な原因 || Dが次
- ↓ 残ったAが最後。経済的に豊かではない子どもの場合の話
- C ↓ B ↓ D ↓ A

練習問題1

問三

- ↓ 「子ども」の話 ↓ 対比 ↓ 「大人」の場合 || Cが最初
- ↓ 「大人」の場合の話・「部下」に仕事をさせる場合 || Aが次
- ↓ 「部下」への接し方やメッセージ || DかB
- ↓ Bの「それでも」に注意。
- || 「Bの内容」「部下」への安全地帯 ↓ 対立する内容のものが前 ↓ DがBの前
- C ↓ A ↓ D ↓ B

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 問一 (P132)	板書例参照。
基本問題2 問一 (P133)	対立する内容を「親」から指導される = 子どもから見れば「親」の話 = 「矛盾」
問二	板書例参照。
問三	筆者の主張なので、文章の最後の形式段落に注目。
練習問題1 問一 (P136)	① = 「確固」という語に着目。 ② = 「過保護」という語に着目。
問二	直前の形式段落注目。最初に段落の内容の「まとめ」が記述されている。
問三	板書例参照。
問四	直後の形式段落が*を含む形式段落の内容を説明。その内容を読み取らせることで判断させる。
問五	直前の段落から、《「不確実」な状況にある = ドーパミンが出ている = 「脳」が楽しんでいる》という話の流れをとらえさせる。
問六	最後の形式段落の内容に注目させる。

☆指導のポイント☆

自由記述を含む問題では、設問の内容を正確にとらえる。設問に問われている内容に対応した「答え方」が重要となる。さらに、設問の内容に対応して、本文の形式段落の内容や筆者の主張あるいは物語の展開や登場人物の心情を表現した中心的な語句を使用して記述する。

板書例

基本問題1

●「おじいさん」↓「ぼく」たち↓「どんな死に方をするか」興味
「おじいさん」の家へ行く

「ぼく」↓「おじいさん」が今、なにをしているのか？

「おじいさん」の家↓ぶどうの匂い↓「ぼく」たちと食べようと置いてあった↓死んでいる

「ぼく」↓「おじいさん」↓ぬけがら↓おそろしくなく↓やさしかった「おじいさん」↓思い出

↓「おじいさん」の死↓受け入れたくない↓かなしい

基本問題2

「アリ」と植物のかかわり

●「蜜」↓「アリ」によって害虫から身を守る↓用心棒↓ソラマメ・サクラなど

●「エライオソーム」↓「アリ」の好物↓「アリ」を利用↓「カタクリ」の種子の例

↓「外敵から守る」↓「遠くに運ぶ」

●「アリ植物」の例↓「枝の中」↓「アリ」に住んでもらう↓「栄養素のすべて」↓「アリ」にあたえる

↓毛虫などから身を守る

練習問題1

本を買う理由↓読む↓わかる

●本に書いてあること↓知っている・関係ない↓判断↓買う・買わない

●書いてあることがわからない↓「わからない」こと↓知っている

●本を買う↓自分について確認すること

●自分の能力・必要↓「以上」の内容の本を買う

●自分に見栄を張る↓「知的」な見栄↓成長↓未来の自分の鏡

●読書↓自己発見・未来形↓読む人の思い↓本は変わる

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 問一 (P146)	22行目・35行目に注目。
問二	25・26行目に注目。
問三	後に続く部分から、「おじいさん」の死を理解しても、気持ちとしては受け入れたくないという「ぼく」の気持ちを読み取らせる。
基本問題2 問一 (P148)	5・6行目に注目。
問二	□A□ = 「カタクリ」の例が記述されている形式段落に注目。30・31行目に注目。 □B□ = 45・46行目及び49行目に注目。
問三	直後の形式段落で、③の具体的な内容が記述されている部分に注目。
練習問題1 問一 (P150)	「本を買おうとする前に行くこと = 立ち読み」から、購入の判断をすることだ、ととらえさせる。30・31行目に注目。
問二	直前の部分から、読み手にとっても、「当然のこととして、予測される筆者の対応」と読み取らせる。20行目に注目。
問三	39～41行目に注目。
問四	《読者の思いによって、「古典」であっても新しいと感じるという内容》から、《読者の思いが本に反映する》という内容の部分を選ばせる。84・85行目に注目。
問五	「見栄」という語から、62行目から始まる形式段落に着目。66～68行目に注目。

☆指導のポイント☆

- 登場人物の心情をとらえることは、物語の主題をとらえる手段のひとつである。心情をとらえる手がかりの主なものは次の4点である。
- ①人物の描かれ方に注目。様子や行動、人物設定など。
- ②心情を直接に表現した言葉に注目。
- ③登場人物の会話と気持ちを心の中で述べた言葉などに注目。
- ④情景の描写に注目。

板書例

練習問題 1

- 「あのことろ」⇨いろいろなもの・ことを感じた
- 「人間」のような「もの」
- めずらしい「生き物」⇨「もじゃもじゃ」「苔みたいなもの」
- 「雲」⇨眺める⇨好き⇨「怖い」⇨青色⇨深く感動

「今・中学三年生」⇨「あのことろ」感じていたもの⇨感じない

- 「ぼんやり」「空想」⇨自分
- 「私が私でいること」⇨不思議に思う気持ち
- 「私と他人・ちがうこと」⇨「怖い」
- 「生きている」⇨不思議⇨いろいろなこと⇨不思議

基本問題 2

或る日 「ぼく」⇨転地療養⇨野球⇨大好き⇨できない⇨不満

⇨「少年」⇨ヨウ」⇨「岬⇨出会う」⇨二人でキャッチボール

← 次の日 「ぼく」⇨「少年」⇨ヨウ」とキャッチボール⇨**恰好の相手**

← 三日目 「ぼく」⇨「パジャマを着た少年」⇨タクヤ」⇨出会う⇨病院で治療しているらしい

⇨野球が好きらしい⇨「ヨウ」とキャッチボールをする

⇨三角野球をする約束

⇨「ヨウ」・「タクヤ」⇨いい奴⇨仲間になりたい

基本問題 1

- 「ぼく」⇨授業中に居眠り⇨なさげない
- 「先生」に叱られる⇨「子ども」あつかい⇨「ぼく」⇨「先生」に不満
- 「先生」⇨いたわる気持ち⇨「ぼく」⇨迷惑⇨仲間に入れてくれない⇨ひとりぼっち
- ⇨「ぼく」⇨いつも眠い⇨「自分」に不満

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P160)	問一 12行目から「ぼく」の気持ちを推量させる。
	問二 「ぼく」の「先生」への不満の内容をまとめさせる。29行目、37行目そして43・44行目に注目。
	問三 60～62行目に注目。
	問四 「ぼく」は自分のことに対して「へん」と思っていることから推量。
基本問題 2 (P162)	問一 ①の後の「ぼく」と相手の行動から推量させる。
	問二 47行目の直前の部分に注目。
	問三 65～67行目に注目。
	問四 《「友人」と思える》ということは《「友情」を感じることができる》ということ。その点から推量。
練習問題 1 (P164)	問一 「時」の変化に注目。
	問二 9・10行目に注目。
	問三 30行目に注目。
	問四 46行目の表現から推量。
	問五 ④と他人から言われる理由を、自分なりに理解していることが描かれている部分を見つけさせる。55・56行目に注目。
	問六 66行目「おばあちゃん」の言い方から推量。
	問七 直後の会話の内容から推量。43行目に注目。

☆指導のポイント☆

- 登場人物の行動の理由をとらえるには、登場人物の言葉や「行動の原因」に注意する。「原因」には物語に直接描かれた事柄に加えて、時代背景・人物の性格・立場にも注目する。
- 登場人物の心情変化の理由をとらえるには、登場人物の感動などの「心の動きの原因」に注目する。行動・言葉の表現などが変化している部分に注意する。「変化の原因」となった出来事や葛藤に特に着目する。

板書例

<p>練習問題 1</p> <p>問三</p> <p>《眠る約束の時間》子ども</p> <p>博士 昆虫図鑑に見入る</p> <p>美絵子 お姫様の絵をスケッチブックに描く</p> <p>《部屋に入ってくる》母親</p> <p>母親 少々泣いている様子</p> <p>↓ 九時台 お気に入りドラマ</p> <p>↓ ホームドラマの主人公の母親 孤独な「死」</p> <p>↓ 「死」 考えさせられる</p>	<p>基本問題 2</p> <p>問一</p> <table border="1"> <tr> <td>「ぼく」</td> <td>↓ Kに関心をもつてもらうための絵</td> </tr> <tr> <td>↓ 「女心」をもっと知る ↓ 「まじめ」を考える</td> <td></td> </tr> </table> <p>教師 図画をうまく描かせること 写実</p> <p>↓ 「ぼく」 よくものを見て描いていない</p> <p>↓ 「まじめ」に描かせたい</p>	「ぼく」	↓ Kに関心をもつてもらうための絵	↓ 「女心」をもっと知る ↓ 「まじめ」を考える		<p>問三</p> <p>◎なぜ「うん」と答えるばかりなのか。</p> <p>「私」 T子にさそわれて、いつしよにみた映画 熱心にみる</p> <p>↓ はっきりと、「私」の心の変化を説明できない</p> <p>↓ 具体的な言葉を使って心の変化を説明できない ↓ 感動・衝撃</p>	<p>基本問題 1</p> <p>問一</p> <p>同級生 T子 「奇抜」な意見・考え ↓ 「私」 平凡 ↓ あこがれ</p> <p>←</p> <p>● たまたま隣の席 ↓ 「頭」からっぽ ↓ 「私」</p> <p>↓ T子に軽蔑されたくない ↓ 緊張</p>
「ぼく」	↓ Kに関心をもつてもらうための絵						
↓ 「女心」をもっと知る ↓ 「まじめ」を考える							

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P174)	<p>問一 板書例参照</p> <p>問二 大人びていない T 子の様子を描いた部分を、後に続く箇所から探させる。21 ~24 行目に注目。</p> <p>問三 板書例参照。「私」は T 子とみた映画によって、心が動かされたが、それを言葉を持って説明はできないので、T 子にも「私」は、自分の感動をうまく表現できないで、「うん」と答えるしかなかった展開を読み取らせる。</p> <p>問四 映画の感想を T 子にもとめられて、気に入ったとも、気に入らないとも明確に自分の気持ちを表現できない様子から判断。</p>
基本問題 2 (P176)	<p>問一 「なる」に注意。今までは、「注意深くなかった」ことに着目。なぜ、注意深くなったか？ 3・4 行目に注目。</p> <p>問二 板書例参照。絵を描く目的が、「教師」と「ぼく」はちがっているが、その目的を達成するためには、「まじめ」な努力が必要だ、ということになる点に注目。</p> <p>問三 「ショック」の程度の変化に注目。38 行目、54 行目及び 56 ~58 行目に注目。</p> <p>問四 「ぼく」のしょんぼりした様子と、ハンカチをなげる場面の様子の対比から判断できる。</p>
練習問題 1 (P178)	<p>問一 (1)7 行目、16・17 行目、12・13 行目に注目。(2)8・9 行目に注目。</p> <p>問二 「美絵子」は「オニババ」の存在を信じていることを読み取らせる。46 行目に注目。</p> <p>問三 板書例参照。82 ~84 行目に注目。</p> <p>問四 「呪文」に着目。「博士」にとって「意味のわからない言葉=実感のない言葉」であり、関心の中心は「クワガタ」であることから推量できる。</p>

☆指導のポイント☆

物語文の内容の要約には、登場人物の行動や心情の変化に注目することが大切なこととなる。登場人物について「いつ」「どこで」「何を」「どのように」という視点から整理するとよい。そうした視点から、物語の展開の中で、登場人物の心情変化を軸に内容の要約ができる。

板書例

<p>練習問題 1</p> <p>問二</p> <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">「松井」</td> <td style="text-align: center;">「ぼく」</td> </tr> <tr> <td>白い手の少女のいる家の下 ↓「その日」川に遊びに行く ↓「お母さん」に聞く ↓家に急ぐ「ハーモニカの省略する気持ち」</td> <td>白い手の少女↓手鏡↓見られる 恥ずかしい気持ち↓早足で行こう</td> </tr> </table>	「松井」	「ぼく」	白い手の少女のいる家の下 ↓「その日」川に遊びに行く ↓「お母さん」に聞く ↓家に急ぐ「ハーモニカの省略する気持ち」	白い手の少女↓手鏡↓見られる 恥ずかしい気持ち↓早足で行こう	<p>基本問題 2</p> <p>問一</p> <p>★「私」の気持ち</p> <p>お小遣い↓お八つ 買いたい ↓母 「たいそう」な扱い↓高い↓迷う ↓決心 母と食べたい↓よいものを買おう</p>	<p>基本問題 1</p> <p>問二</p> <p>◎ダイビングで潜っているとき 青い世界↓「海」うつくしい↓おどろく↓楽しい</p> <p>◎ダイビングに潜った後 ふるえて立つことができない↓他人事 《思い出す》</p> <p>◎ダイビングに潜る前 ●後悔 海↓怖い↓心細い↓泣きたい ← インストラクター 保護者のよう ← ●安心</p>
「松井」	「ぼく」					
白い手の少女のいる家の下 ↓「その日」川に遊びに行く ↓「お母さん」に聞く ↓家に急ぐ「ハーモニカの省略する気持ち」	白い手の少女↓手鏡↓見られる 恥ずかしい気持ち↓早足で行こう					

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>基本問題 1 問一 (P188)</p> <p>問二</p> <p>問三</p>	<p>直後の「私」の気持ちを表した部分に注目。</p> <p>板書例参照。「潜ったときの感想・潜った後→潜る前を思い出す」の書いてある順序に注意。</p> <p>「子供」＝「大人ではない」→《「大人＝自分の能力の許す範囲だけで生活」ではない》</p>
<p>基本問題 2 問一 (P190)</p> <p>問二</p> <p>問三</p>	<p>板書例参照。「母と食べたること＝私にとって楽しい」＝重要なこと。</p> <p>直前の母親の言葉と直後の「私」の言葉に注目。</p> <p>このときの「私」の気持ちはどんなだったか、を読み取らせる。直前の部分から、腹を立てていることが分かる。そして、それを行動や言葉に表向き表さないで、我慢することにした「私」の決断から推量させる。</p>
<p>練習問題 1 問一 (P192)</p> <p>問二</p> <p>問三</p>	<p>□A□ = 歩いている様子を表す語から判断。</p> <p>□B□ = 45行目から、息を切らせる程度に早足をしていることから判断。 □C□ = 腕をふりあげる動作から判断。</p> <p>板書例参照。</p> <p>二人の感動の前後における出来事に注意。「少女＝白い手」→「手鏡」→「少女＝女の子の顔を見た」。</p> <p>少女が手鏡で、二人を見ようとした出来事をはさんで、二人の気持ちが変わる。それまでは「白い手」としかわからなかった少女を、はっきりとはわからないが、少女を「顔」としてとらえることができた。この変化が、二人の感動となって表れていることを読み取らせる。</p>

☆指導のポイント☆

- 「表現技法の種類と内容、その効果を理解する。」
- 表現技法を使うことで、書き手は、読み手に、感動の中心を伝えようとする。
- 表現技法に注目することは、主題をとらえる方法のひとつである。

板書例

《表現技法》

- 比喩
 - ◎ 直喩(ちよくゆ)
 - || 「〜のようだ」などを使って、たとえるものをはっきりと示す。
 - ◎ 隠喩(いんゆ)
 - || たとえるもの・たとえられるものをはっきりと示さない。
 - ◎ 擬人法(ぎじんほう)
 - || 「人」ではないものを、「人」として表現。
 - ↓ いきいきとしたイメージを読み手にあたえる
- 体言止め(たいげんども)
- || 文の終わりを、体言(名詞)のもの・代名詞(人やものをさし示す)で止める。
- ↓ 読み手に対して印象を強める。
- 倒置法(とうちほう)
- || 文の成分(主語・述語・修飾語など)の順序が、ふつうの文とちがうもの。
- ↓ その部分を強調する。
- 対句(ついく)
- || 語句の意味や、語句の音、文の成分が同じものを、対(ついで)にして並べる。
- ↓ リズムをつくる。
- 反復法(はんぷくほう)
- || 同じ語句をくり返し使う。
- ↓ その部分を強調するとともに、リズムをつくる。

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P202) 問一 問二 問三 問四	2・3行目の「ほく」の言葉に注目。相手の言葉に対して、まじめに応答しない様子からも推量できる。 「みたい」に着目。「鳥」と「人」とのちがいに注意。 板書例参照。 A = 「ような」に着目。直喩。 B = 「星々」は「人」ではないにもかかわらず、「人」のような表現を使っている点に着目。擬人法。 C = ふつうの文と文の成分の順序がことなっている。倒置法。 D = 文末が、名詞で終わっている。体言止め。 「四散」とは、集まっていたものが、四方に散ってしまうこと。
基本問題 2 (P204) 問一 問二 問三 問四 問五 問六	「人」のように表現する技法。擬人法。 ② = 擬態語に着目。「擬態語」= 動作などの様子を表したそれらしい語。「擬声語」(ぎおんご) = 実際の音をまねて表した語。カタカナで表すことが多い。 ③ = 体言止めの表現技法に着目。 15行目の「比喩」に注意。「草原」→「比喩」→「海」 現実に目に見えているものは何か、から判断。「現実」→「比喩」→「たとえているもの」 9・10行目に示された筆者の考えを、さらに展開している部分が後に続くことから、判断できる。 「現実」→「想像」という視点に注目。
練習問題 1 (P206) 問一 問二 問三 問四 問五	「口語・音の数が決められていない」ことから判断。 擬人法に着目。 文末が「名詞」になっている行に着目。 倒置法が使われている。「〜いい」で終わる文にさせる。 4行目、8行目、9行目、13行目、15行目に注目。